

## 古河駐屯地司令に豊田陸将補着任



第37代 古河駐屯地司令  
豊田陸将補

「地域とともに  
活気あふれる駐屯地」

平成三十年十二月二十日、豊田陸将補が、第三十七代古河駐屯地司令として着任した。  
「地域とともに活気あふれる駐屯地」を駐屯地司令として要望するとともに、訓示において、「私たちの活躍の基盤である駐屯地が居心地のよい、また、地域から理解されることを目指しながら、駐屯地を作っていく」との所信の一端を述べた。  
引き続き行われた、駐屯地初度視察においては、隊員の勤務場所・営内居室・工場・倉庫等を確認するとともに、隊員を激励し、現状を把握した。

### 日米共同部隊訪問



概況説明



儀じょう



懇談



装備品展示

一月十日、駐屯地において、日米の友好及び日米同盟の連携を強化を図ることを目的とした、日米共同部隊訪問が行われた。  
陸上幕僚長 山崎陸将、東部方面総監 高田陸将、第三海兵機動展開部隊司令官兼沖縄四軍調整官 スミス中将が来隊し、警衛隊による荣誉礼、儀じょう隊による儀じょうを行ったのち、概況説明、訓練・装備品展示を行った。  
訓練展示では、92式浮橋を用いたへん水、連接の展示、渡河ポイントを用いた漕舟体験、装備品展示では、07式機動支援橋及びパネル橋MGBの展示を行った。  
その後、駐屯地司令室において懇談が行われ、部隊訪問を成功裡に終了した。

### 年末行事



駐屯地司令挨拶



各部隊を慰勞



祝い餅つき



来賓祝辞

(青木後援会会長・針谷協力会会長)

十二月二十一日、駐屯地年末行事が行われた。初めに、各部隊が餅つきを行う中、駐屯地司令が各部隊等を巡回し、一年の労をねぎらった。  
また、駐屯地厚生センター前において年末セレモニーを実施し、当初、駐屯地司令が挨拶、次に、協力会会長(古河市長)針谷力様、後援会会長 青木正夫様から御祝辞を頂いた。  
セレモニーにおいては、来賓の方々と駐屯地部隊長等による祝い餅つきが行われ、会場はおおいに盛り上がった。  
続いて、体育館等において来賓の方々との懇談や各部隊OB、隊員家族との会食を行い、楽しい時間を過ごし盛会のうちに終了した。

# 駐屯地新成人祝賀行事



成人の主張



激励の言葉（岡安事務官）  
謝辞（佐藤士長）



新成人抱負発表（平原士長）



駐屯地司令式辞



祝賀行事

平成三十一年一月十五日、古河駐屯地新成人祝賀行事を駐屯地会議室で実施し、新成人二十六名の前途を祝った。

祝賀行事においては、来賓の方々が見守る中、全員で国歌斉唱を行ったのち、駐屯地司令が式辞を述べ、協力会会長（古河市長）針谷力様からご祝辞を頂いた。その後、新成人を代表して第一〇二施設直接支援大隊 平原士長が抱負として、「社会人としての責任と自覚を持つ・親への感謝の心を忘れない・適切な飲酒を心掛ける」など、二十歳となつての誓いを述べた。

祝賀行事後、駐屯地食堂で祝賀会食を実施し、新成人達は、来賓及び部隊等から祝福を受けた。会食の最後は、先輩隊員代表として岡安事務官から「模範となるよう努力し、張ろう」と激励の言葉をもらい、佐藤士長が「今よりも成長出来るよう日々努力します」と謝辞を述べた。

また、一号宮庭で行われた成人の主張においては、駐屯地全隊員が見守る中、個人の目標や親への感謝を大声で発表した。

午後は、市内の篆刻美術館において篆刻体験。成人の記念に、石に一文字を彫った印鑑を作成し、祝賀行事を終了した。

## 茨城県殉職隊員追悼式



顕花



追悼式会場

十月五日、勝田駐屯地において茨城県殉職隊員追悼式が行われ、古河駐屯地を代表して、古河駐屯地司令及び各部隊等の代表者が参列し、鎮魂の祈りを捧げた。

当日は、慰霊碑参拝に引き続き、追悼式典が厳粛に執り行われ、黙祷の後、遺族、茨城県知事をはじめ来賓の方々、各駐屯地司令等が献花を実施した。

終わりに、儀仗隊による弔銃が行われ、式は終了した。

## 新成人紹介

小山 1 士	今井 1 士	辰野 士 長	関口 士 長	栗原 士 長	吉田 士 長	木村 士 長
三浦 士 長	新井 1 士	箕輪 士 長	佐藤 士 長	角山 士 長	山口 士 長	酒井 士 長
那須 事務 官	小峰 事務 官	小林 1 士	川原 田 1 士	平原 士 長	高橋 1 士	奥山 1 士
<b>祝！</b>						
<b>26名</b>						
武田 1 士	高島 3 曹	金野 1 士	寺本 士 長	平原 士 長		

## 定年退官者（予定）の紹介



古河駐屯地業務隊  
村越 曹 長 3月7日付



古河駐屯地業務隊  
針谷 曹 長 2月16日付



関東補給処古河支処  
上岡 曹 長 2月3日付



関東補給処古河支処  
塩田 事務 官 3月31日付



関東補給処古河支処  
鈴木 事務 官 3月31日付



関東補給処古河支処  
島田 事務 官 3月31日付



# 関東補給処古河支処



施設巡視（軽徒橋の説明）

十一月二十七日、関東補給処長（權藤陸将）による初度視察を受け、施設器材の整備・修理及び補給業務の現状を確認された。

訓示では「限られた中で真摯に対応してくれている。その上で処長要望事項『更に前へ』が必要である。」と述べられた。



業務システムによる在庫確認

十一月十六日から二十六日までの間、平成三十年度秋季東・北富士演習場定期整備における補給整備支援を実施した。

支援期間中、部隊の要求に基づき、四十四品目百二十九品の部品補給を実施、計七回の補給品輸送を行うとともに、野整備部隊に対する技術援助を実施する等、施設器材の可動率向上に寄与した。

また、本定期整備支援の場を活用し、前方兵站支援を想定した指揮所の開設・運営について演練するとともに、若年隊員及び事務官・技官に対して識能の向上のため現地研修を実施した。あわせて、野整備部隊に二名の隊員を派遣し、野外における整備能力、戦闘基礎動作の練度向上を図った。



力走する支処隊員

十二月五日、関東補給処において持続走競技会が実施され、古河支処は、総合第三位という成果を収めた。

開会式は雨に見舞われたが天候が回復し、各隊員が昨年度の優勝に続き二連覇を目指し力走したが、惜しくも優勝には届かず悔し涙を流した。来年は隊員が更に一丸となり優勝旗の奪還を目指す。



野外における施設器材整備

# 古河駐屯地業務隊



駐屯地樹木伐採作業（フアンチャザワルスによる伐採）



台風24号被害復旧作業（倒木による被害復旧）



感染症対処訓練（防疫班による消毒作業）



油流出対処訓練（土壌とパイプによる堰の構築）

駐屯地の保守を図った。また、十一月、支処第一補給庫天井照明取り替えは五十灯を水銀灯からLED化し駐屯地省エネ化を図った。

3 四半期駐屯地施設の整備として、十月、台風二十四号被害復旧作業、駐屯地樹木の伐採及び、ポイント送気管漏れ調査等計三十七件、十一月、支処補給品庫の外壁補修、天井照明取り替え及び、駐屯地電気設備保守点検等計三十一件、十二月、給水配管漏水補修、アーケード屋根補修（継続）、場外着陸上検査等計二十七件の保守・補修・点検作業を実施した。

感染症対処訓練（防疫班による消毒作業）

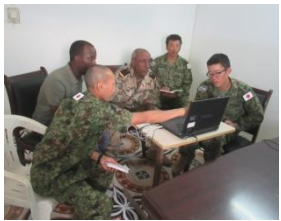
では駐屯地食材を原因としたノロウイルス感染症患者が発生したとの想定で、患者対応から対策本部会議、防疫班による消毒作業の実施等、一連の行動を訓練し、対処行動の検証及びマニュアルの改善を図り、各不測事態対処に万全を期した。

十月油流出を想定した不測事態対処訓練を、十一月感染症患者発生を想定した不測事態対処訓練をそれぞれ実施した。

油流出を想定した訓練では駐屯地の隊員を含め、吸着材・分解処理剤・オイルフェンス等、対処資材の格納場所及び使用要領を教育・訓練し、事案発生時の対処要領の普及徹底を図った。

また、感染症対処訓練では駐屯地食材を原因としたノロウイルス感染症患者が発生したとの想定で、患者対応から対策本部会議、防疫班による消毒作業の実施等、一連の行動を訓練し、対処行動の検証及びマニュアルの改善を図り、各不測事態対処に万全を期した。

# 第101施設器材隊



ジブチ軍統括教官への教育

九月二十二日から十月十八日までの間、ジブチ共和国において「ジブチ災害対処能力強化支援活動」に隊から、特殊器材中隊長、本森一尉、上野二曹及び、松村二曹の三名がジブチ軍兵士十名に対し施設機械操作及び教官養成を実施し、ジブチ軍の災害対処能力等の向上のため活動した。



OB会に状況説明



完成した浮橋を通行する来場者



不審者拘束

十一月六日から八日までの間、習志野駐屯地において架橋中隊長青木一尉（当時）以下三十九名が、航空自衛隊との協同訓練を実施した。

訓練においては、航空自衛隊の重要防護施設を防護するため、航空自衛隊の隊員と協同連携し警戒、監視、巡察、不審者・武装工作員対処等を実施した。

十月十四日、東京都葛飾区で実施された「葛飾区総合防災訓練」に参加した。

訓練では、松戸市方面への帰宅が困難となった方が江戸川河川敷に滞留した場合を想定し、施設教導隊（施設学校）からの配属を受け九二式浮橋を葛飾区と松戸市と境界となる江戸川に約一四〇mの浮橋を架設した。

江戸川に船橋を架設することは約一六〇年ぶりであり、当日は、一千人を超える来場者が浮橋を通り見た。また、器材訓練等の見学や状況説明を実施した。



# 第301ダンプ車両中隊



演習場において卸下する様子

十一月十六日から二十六日までの間、秋季東富士演習場定期整備に参加し、ダンプによる全般支援及び界松機道路整備の任務を一件の事故もなく完遂した。この間、総運土台数四百六十台・二千八百八m<sup>3</sup>の骨材運搬をし、若年隊員の操縦能力及び施設機械操作能力を向上させた。



戦技競技会（断郊走）

十二月十一日から十四日までの間、団戦技及び兵站競技に参加し、各種目において中隊代表選手が練成の成果を十分に発揮し、断郊走四位、漕舟三位、銃剣道六位、兵站六位の成果を収め、中隊の戦闘能力及び炊事能力を向上させた。

# 第102施設直接支援大隊



特大型ダンプ故障整備

十一月十五日から二十五日までの間、東富士整備支援隊として、当該整備に参加した。本整備支援隊の編成にあたり、平素の直接支援体制を保持しつつ、全般支援大隊の一部の支援（需品整備機能）を受けて、第一線部隊の装備品の高可動率維持に寄与した。



断効走

十二月十九日、第一〇二施設直接支援大隊断郊走競技会を実施した。四名一組として、十四組五十六名が力走し、隊員の体力・気力の向上、部隊の団結の強化及び士気の高揚を図った。

# 320基地通信中隊 古河派遣隊



和やかに行われた会食

十一月三十日、古河派遣隊へ第一〇五基地システム通信大隊長初度視察が行われた。古河駐屯地内の通信隊が管理する各施設や営内者居住区等を視察したのち会食、懇談を行った。大隊長は「力を合わせ職務を遂行してほしい。」と述べた。派遣隊は、隊長を中心に一致団結し、職務に邁進していく。



練成の様子

十二月十一日及び十三日に朝霞駐屯地で行われた、群持続走競技会に参加した。本番でより良い結果が残せるように各人練成に励んで臨んだ持続走競技会では、練成の甲斐もあり、試走より好タイムを記録するなど練成の成果を余すところなく発揮することができた。

# 第337高射中隊



胴上げ

十二月四日及び七日の二日間、松戸駐屯地において行われた、平成三十年度高射群持続走競技会に参加した。成績は準優勝であったが、選抜走・一般走ともに自己新記録を更新してより、各人は、日々の努力の成果を遺憾なく発揮することができた。今後は来年度の優勝を目標とし、練成を維持する。



銃剣道大会

十二月十二日、二高群銃剣道大会に参加した。成績は団体戦第三位、個人戦においても山口一士が一任期末満の部第二位、松永士長が陸士の部第三位と優れた成績を残した。指導部の熱心な指導により、若年隊員が良い結果を得ることができたのは中隊にとつて大きな成果であった。

# 曹友会



試合



選手宣誓

十二月十六日、駐屯地曹友会は「古河駐屯地司令杯小学校バレーボール交流大会」を開催した。今大会は、近隣住民との交流を図り、自衛隊及び駐屯地に対する理解と信頼を向上することを目的として近隣小学生を招待して実施した。当日は、駐屯地司令の挨拶の後、小学生代表による力強い選手宣誓で幕を開けた。大会は、二ブロック八チームによるリーグ戦を実施し、白熱した試合を繰り広げた。また、休憩時間等には広報展示室や展示車両の見学を行い、笑顔のぞかせていた。

# 第341会計隊



射撃練成

十月二十三日から二十四日までの間、東部方面会計隊射撃競技会至近距離射撃の部が実施された。基本射撃及び至近距離射撃における得点、離射撃における得点、射撃勤務、分解結合等総合的に採点された結果、全十個部隊中、二年連続の優勝という成果を収めた。来年度も成果を収められるよう励んでゆく。



優秀隊員（池田三曹）

十一月十五日から二十六日までの間、定期演習場整備会計機動支援班として川端三佐、佐々木二曹、池田三曹が参加し、整備隊に必要な借上器材に係わる調整、糧食品現地調達対応等を実施した。第一施設団長より、優秀隊員として池田三曹が表彰を受けた。